

大人からのメッセージを伝えるプロジェクトについて

佐藤 秀行



〔質問〕全国各地で、人口減少対策や地方創生を目的としたさまざまなプロジェクトが展開されている。

白石市民の知恵や発想等を有効に活用し、白石の魅力を大人から子どもたちに伝える取り組み、そんな白石の魅力を伝えていくプロジェクトを考えてはどうか、所見を伺う。

〔答弁〕【市長】市民の力や若い世代の力が結集されて、市内外に白石の魅力が伝わり、地域への愛着が高まることは、定住促進や交流人口の拡大に、大変意義深いことである。

今後、大人の世代や若者の世代を問わず、

市民とともに、白石の魅力を伝えるプロジェクトを積極的に推進していきたい。

◎「白石市の特色ある教育」について

〔質問〕英語教育は、市の特色ある教育の一つである。市のALIT（外国語指導助手）は、

現在、6名の配置である。外国語と異国の文化に親しむことができるといっても、ALITの活用は極めて有効であると考える。

そこで、近隣市町のALITの活用状況について伺う。

〔答弁〕【教育長】角田市と柴田町が各3名、大河原町・蔵王町・川崎町・丸森町が各2名、七ヶ宿町・村田町が各1名である。

本市のALIT6名は、非常に恵まれていると考える。

〔質問〕平成29年度のALIT配置計画や増員計画があるのか伺う。

〔答弁〕【教育長】中学校区を基本としたブロックごとにALITを配置する予定である。

増員については、現在のALIT6名をいかに有効に活用していくかを考え、今後も、子どもたちの英語教育を推進していきたいと考えている。

〔質問〕平成27年度から取り組んでいる市の校長会、白石高校や市内の小中学校が連携した英語の推進事業について伺う。

〔答弁〕【教育長】主な取り組みとして、①年2回の小中高校による授業参観、②中学高校によるグレードテストの実施、③中学校区ごとの授業参観と情報交換を行い、特に9年間を見通した英語の力キキュラムの作成を考えている。

戦没者慰霊について

大野 栄光



今ある豊かさは、多くの先人の努力である。

平和憲法に守られ、70年安寧に暮らすことができたのも、戦いの犠牲となり、ふるさとに帰られなかった方たちのおかげと考える。

〔質問〕ご遺族も高齢となり、亡くなられた方もいる。

今後、自治体として慰霊をどのように考えて進めていくのか伺う。

〔答弁〕【市長】戦没者追悼式は、5年ごとに白石市遺族会が主催となり開催している。市では、補助金により支援してきている。

しかし、遺族会が会員の減少と高齢化、また、会員の負担が大きいため、終戦70周

年戦没者追悼式は見送られ、70周年記念事業として靖国神社参拝が行われた。

市としても、白石市遺族会の考えに沿って支援していきたいと考えている。

〔質問〕市内各所に慰霊碑がある。その中には、管理されず枯れ葉や木の枝が散乱しているところもある。

行政として、公園のように管理できないものか伺う。

〔答弁〕【市長】建立者や土地所有者が白石市ではないことから、行政として管理することはできない。

◎子育て支援と人口減少について

市長は、「子どもが夢を実現できる環境をしっかりとつくりたい」「人口減少で山積する

問題の打開等を目指し、先頭に立って積極果敢に突き進む」と表明し、市民も大いに期待している。

〔質問〕平成29年度の子育て支援の重点施策と人口減少対策の具体策について伺う。

〔答弁〕【市長】重点施策としては、放課後児童クラブのクラブ室増設による受け入れ態勢の拡充、一時預かり事業の開始、第3子以降の小学校入学祝金贈呈などである。

人口減少対策としては、教育環境の整備や移住や定住の促進、雇用の創出等の分野で独自性を持った事業を多面的に推進していくことである。

さらに、農産物ブランド化推進事業など、にぎわいの創出と地域活性化を目指した地方創生の核となる事業を積極的に展開することである。